

05

検証成果を足掛かりに、
DX導入・展開計画を
策定せよ



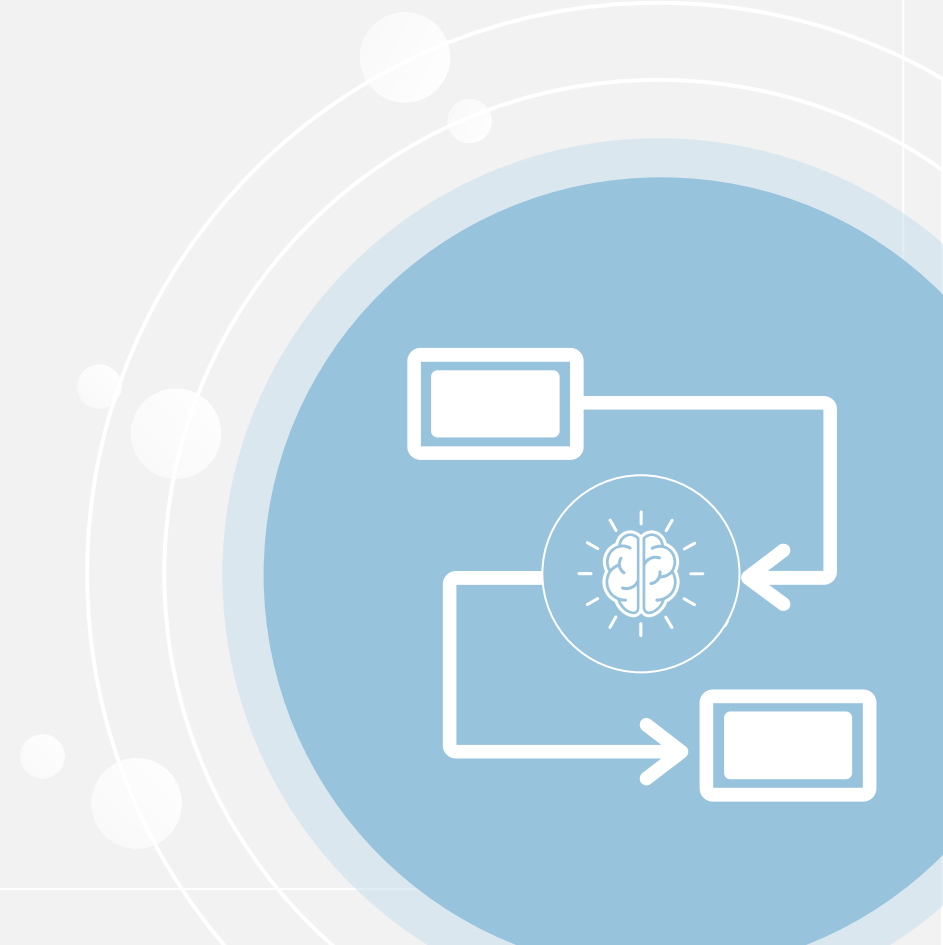
はじめに：本パートで学べる内容

本パート「**DX導入・展開計画**」では、前項までに検証した打ち手を実務に浸透・導入させるために、導入後の業務プロセス設計、検討すべき要素の策定と、それを社内に展開していくためのロードマップ策定スキルを学ぶことができます。

(具体的には、以下の内容を学びます)

- DX導入・展開計画の策定スキル
- ROI策定、効果検証設計／算出スキル

検証し効果が確認できた打ち手の最大化のために
検討すべきことを、このパートを通じて理解しましょう！



演習05の進め方



課題

演習05の進め方

演習04では、演習03で検討した打ち手の中の1つについて、実際にデータ/デジタル技術を駆使して検証（簡易的なPoC）を行って頂きました

演習05では、**1週間で**演習04の検証結果（PoC結果）に基づく**DX導入・展開計画**を立案して頂きます。
まずは、エクササイズを通じて、DXの導入・展開計画として、どんなことを策定すると良さそうか考えてみてください

上記で洗い出した内容を基に、演習04で検証した打ち手を実務に浸透・導入させるために必要な計画を策定してください

- もし、演習04でうまく検証結果に辿り着けなかった方は、**演習04解答例の内容を基に、本演習に取り組んで頂いて構いません**



提出物

本章では、DX導入・展開計画として取り決めるべき事項を具体化する形で提出してください。

本章では、形式（ワード・PPT等）や提出文字数や枚数に制限はありません

- DX導入・展開計画
 - 部分的に検証した打ち手を、最善・最短に実務導入するために、計画・設計すべきことは何か？
 - 打ち手の更なる進化のためには何に取り組むべきか？
 - 本PoCを通じて得たノウハウを他業務に展開しつつ、全社DXを推進するためにはどうすればよいか？

提出後、解答例を見ることが出来ますので、参考にしてください **※ 本パートでは、提出物に対する評価はありません**

エクササイズ: DX導入・展開計画 策定に必要な項目の洗い出し

課題

前演習までに検証した打ち手を、実際に業務環境に組み込むには、どのような観点を検討すべきか、書き出してみてください。尚、中長期的な視点で、全社DXに向けて必要な視点も盛り込むことができると、より良い計画となります。

- DX導入・展開計画の項目を考えるための観点
 - 部分的に検証した打ち手を、最善・最短に実務導入するための必要事項は？
 - 打ち手を一過性に留まらず、更なるレベルアップ・精度向上に向けた各種計画は？
 - ノウハウの横展開・段階的な拡張による、全社DXのための道筋・ロードマップは？

エクササイズ解答例: DX導入・展開計画 策定に必要な項目の例

検証した打ち手を業務に組み込むための「DX導入計画」策定にあたっては、以下のような項目について、検討を行ってください。但し、以下項目はあくまで一例ですので、プロジェクト内容に応じて適宜追加/削除する必要があります。また、全社DXに向け、中長期的な視点での進め方(≒DX展開計画)を盛り込むことができると、より良い計画となります。

部分的に検証した打ち手を、最善・最短に実務導入するために検討すべき視点
(≒DX導入計画)

- プロジェクトの大方針、概要
 - 目的、ゴール、スコープ、モニタリングKPI、成果物、実施期間 等
- 投資回収計画(費用、効果、ROI等) ◀補助教材①ご参照
 - どのような効果が見込めるのか?
- 業務プロセスの変更 ◀補助教材②ご参照
 - 実際にどのような業務フローで運用していくか?
- システム構成・データ管理・データ活用
 - 変革のためにどのような仕組みを導入するか?
 - 必要なデータをどう蓄積し、どのような手順でデータ管理するか?
 - 蓄積したデータをどう分析し、どのようなアクションに活用するか?
- プロジェクト管理要綱
 - 組織計画(体制、コミュニケーションルール等)
 - どのような体制でプロジェクトを推進するか?
 - 進捗計画(スケジュール、管理方法等)
 - どのようなスケジュールで進めるか?
 - 進捗が思わしくないときに、どのように対処するか?等
 - 品質計画・リスクマネジメント
 - 実務への悪影響をどう考慮するか?
 - その他、考慮すべき観点はないか?

今後のDXに向けて盛り込むべき視点
(≒DX展開計画)

◀補助教材③ご参照

- 「打ち手の進化」
 - PoCで検証した打ち手の精度向上
 - 更なる精度向上のためにどんな取り組みが必要か?
 - データ収集の仕組みを効率化できないか?
 - 打ち手の他工場への展開
 - 榛原工場で検証した施策を、他店舗でも同様に実施するためにはどうすればよいか?
- 「学び・ノウハウの横展開」
 - PoCを通じて得たノウハウを、社内の別業務に転用できないか?
 - 本施策実行のために整形・蓄積したデータを、他の課題解決に活用できないか?
 - 他部署に横展開する場合、全社最適を考え、どのような順序で展開するべきか?
 - ...etc

補助教材①：投資回収計画の策定

簡易的にでもROIを試算し、"当該施策に本当に取り組む価値があるのか?" を客観的に判断することが重要です。ただし、昨今のビジネスにおいては不確定要素も多く、まずは"学びを得る"目的で、デジタル活用に取り組んでみましょう！

作成における考え方、メリット 等

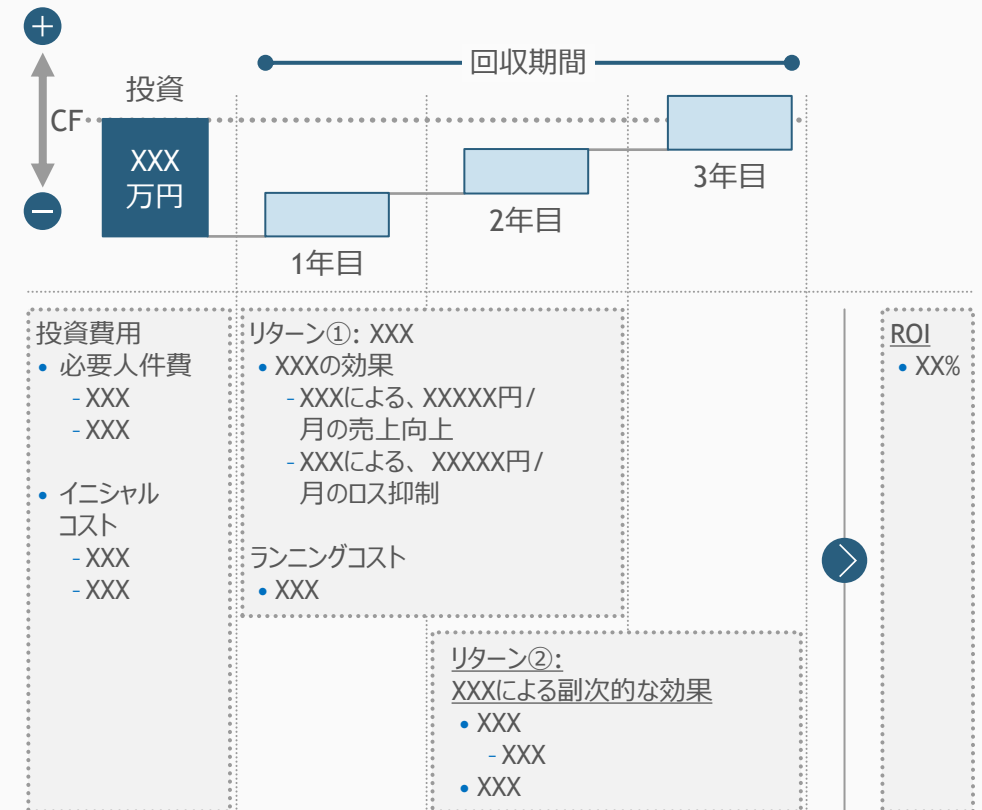
作成における考え方

- 定量的に得られる成果だけでなく、副次的に生み出される新たな価値も含めて、リターンを試算・検討してみましょう
- 新たな業務プロセスへの変更やシステム構築等、DX施策推進において考慮すべきコストを試算しましょう
- 中長期的な視点で投資対効果 (ROI) を評価しましょう
- ただし、古今東西、最初から成功するとわかっている取り組みは少ないものです。まずは純粋に学びを得る目的で、データ/デジタルを利活用した施策に取り組んでみましょう！

メリット

- 簡易的にでもROIを試算することで主観を排除でき、"本当に取り組む価値があるのか?" を客観的に判断できます
- 目標を定める事で、担当者に使命感が醸成されます
- 中長期的な視点で検討しておくことで、撤退時期も考慮することができ、ダラダラと投資を続けてしまうリスクを回避できます

作成イメージ



補助教材②：業務フローの整理・比較

DX施策に限らず、担当の明確化・属人化の抑制 等のために業務フローを整理する習慣を付けましょう。
業務フローが変更となる場合にも、資料に整理することで変更点を明確化でき、情報共有の効率化が期待できます

作成における考え方、メリット 等

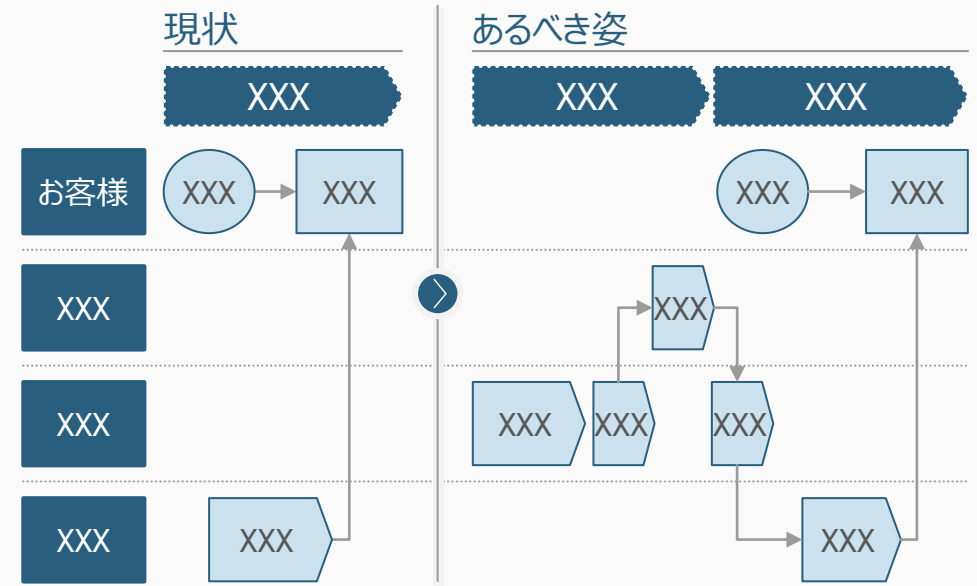
作成における考え方

- 業務フローとは、「ある目的を達成するまでの一連の業務の流れ」のこと
- 無意味に複雑化せず、下記のメリットを意識して簡潔に整理しましょう

メリット

- 担当の明確化
 - 業務フローを整理することで担当者が明確になります
- 属人化の抑制
 - 業務フローを整理・可視化することで、暗黙知を形式知化でき、属人化を抑制できます
- 課題や変更点の明確化
 - 現状課題や変更点が明確になります
- 情報共有の効率化
 - 組織全体への情報共有を効率化できます

作成イメージ



Point

発生工数, 削減工数を定量的に示すことができると、より良い資料になります

X.X人月
(X人 × X.X月)

▲X.X人月
(X人 × ▲X.X月)

補助教材③: DX展開計画 (DX推進ロードマップ) の作成

打ち手を一過性に留まらずに、レベルアップ・横展開できることは無いかを検討してみましょう。何を、どのような順序で、どれくらいの期間で実行するとよさそうか、なぜそう考えるのか、仮説ベースで検討し、上司・上長と議論してみましょう！

作成における考え方、メリット 等

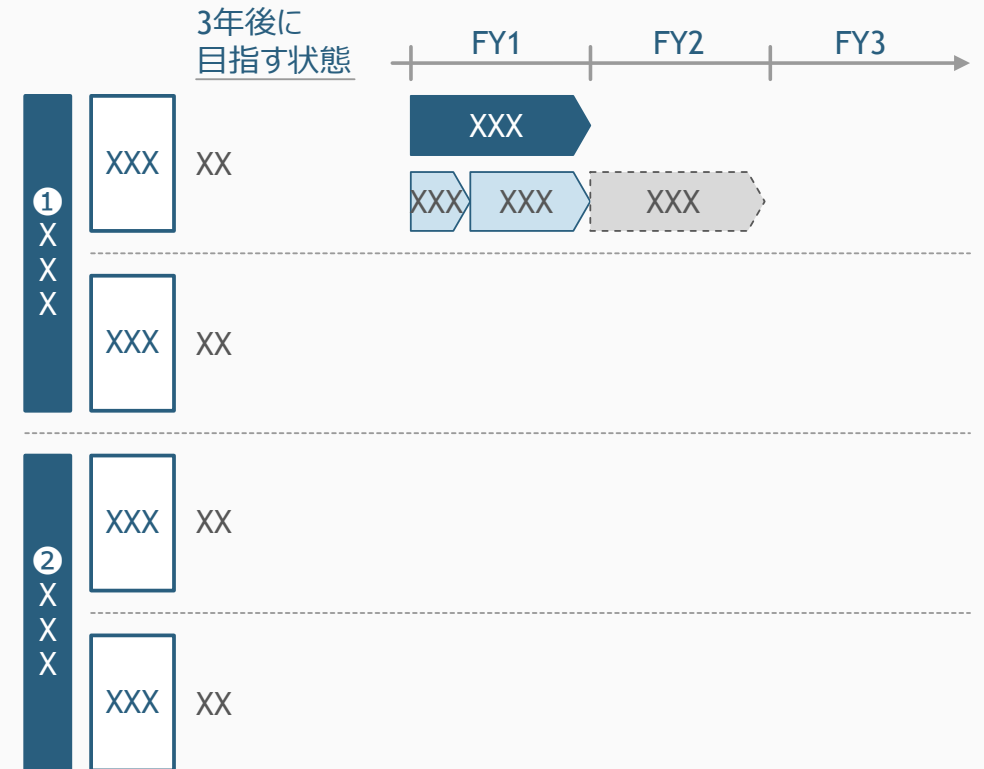
作成における考え方

- 打ち手を一過性に留まらず、更なるレベルアップ・精度向上に向けて取り組めることは無いか検討してみましょう
- また、得た学び・ノウハウを他部門・他業務に展開できないか検討してみましょう
- なお、DXロードマップを初期的に検討する段階において、精度はそこまで重要ではありません
- 3年程度先に目指す状態を仮置きで定義し、何を、どのような順序で、どれくらいの期間で実行するとよさそうか、なぜそう考えるのか、仮説ベースで検討し上位者にぶつけてみましょう。

メリット

- 仮説的にでも議論のネタを提供することで、上司・上長から「それよりも先にこれをやりたいんだよね」や「それだと時間がかかり過ぎるなあ」などのコメントを頂くことができ、より詳細なロードマップへ修正することができます

作成イメージ



**演習05の提出が完了したら、
演習05ページの"データ"タブに掲載の演習05解答例をご確認頂いた上で、
演習06に進んでください。**